

肥後っ子のしつけ十章 座談会



歯のみがき方を練習する幼稚園児

お母さん
お祖母さん
大いに語る

津奈木
発行所
津奈木公民館
芦北郡津奈木町
電話(代表3111番)
編集 編集委員会
印刷所 三和印刷所
電話(水俣)②3972番

※司会者
県教育委員会が、家庭での
子供のしつけの道しるべとし
て、「肥後っ子のしつけ十章」
という本を出版して、日もち
た浅いのに既に四万五千部を
こしたということです。

- ◎野崎久子(平岡)
- ◎高男・高女・中二女
- ◎千々岩順子(津奈木)
- ◎高男・中一男
- ◎白坂寿子(津奈木)
- ◎高女・中三男・小一女
- ◎西 滋子(津奈木)
- ◎高女・中三男・小一女
- ◎宮崎 哲(津奈木)
- ◎息子二人は就職
- ◎西平春代(津奈木)
- ◎保育園児
- ◎司会 永松登弥
- ◎外に松本・伊藤岡社主事
- ◎司会者
- ◎保育園児から大学生まで、
子供さんもお母さん方も年齢

の幅が広いので、多様な意見がうかがえることとして、
「肥後っ子のしつけ十章」
という本を出版して、日もち
た浅いのに既に四万五千部を
こしたということです。

ですが、あの頃こんな本があ
ったと思います。
それでも孫のしつけの相談相
手になれるようにと思って、
熱心しています。それと東京
に嫁している長女にも読ませ
たいと思って二冊買いました。
(F) 子供を育てた私共年
配になりますと、こんな本は
「もういらぬ」と思い勝て
ありますが、孫のこともあり
……やっぱりこんな本を読ん
で、家族ぐるみでしつけるこ
とが、大切ではないかと思
います。

(B) 婦人会員ばかりでなく、
中学生や高校生にも読ませた
らどうかと思います。
(C) 私の長男は高校二年です
が、親子でこの本を読んだ
高校生の暮し方について、話
り合いました。平素遠慮して
いるようなことも、さくば
つたと思つています。
(A) 私は選挙場に行つていま
すが、ひる休みの時間にこの
本を読んでいます。鹿兒
島から来ている独身の人が、
「いい本ですねー私も読んで
みたい」と言っていました。
感心な人だと思いました。

桜島大根を 作って みませんか



七月十一日午前九時三十分
より三十名の若いお母さん
たちが集まり若妻学級が誕生し
ました。時間は九時三十分よ

若妻学級開く

り十一時三十分まで、年間
八回にわたっての学習です。
婦人会の方々の応援をうけ
て、小さな子供をあやしなが
らの受講でした。

次会は八月二日
演題 稼と姑 講師は、
県消費生活センター
上田カツ子先生、です。

昭和52年度 若妻学級年間計画

期日	学習課題	学習内容	方 法	講 師 等
7/11	開 級 式 レクリエーション	自己紹介等	ゲーム その他	白瀬セイ先生
8/2	家庭問題	嫁の姑	講義 話し合い	県消費生活 センター 上田カツ子先生
9/7	子どもの病気 の 看 護	勉気の種類と 救急看護	講義 実 技	保 健 所
10/5	乳幼児の食事	栄養指導 偏食矯正	講義 討 議	保 健 所
11/2	乳 幼 児 の し つ け	共同生活 その他	講義 話し合い	津奈木 小学校長
12/7	母 体 保 護	家族計画 婦人の病気	講義	保 健 所
1/11	家族の食事	栄養指導	実 技	改良普及所
2/1	開 級 式	反省会	話し合い	津奈木町 教 育 長

時間 午前9:30~11:30

教育の里青年の家明け暮れ(一)

青年の家という文字からし
て、頭にかかぶるが、若い青
年男女だけの学習の場と考え
がちであるが、全くちがうの
である。

青年の家 紹介(一)
県立天草青年の家は、雲仙
天草国立公園内の千之森岳の
中腹に建設された社会教育施
設で、青少年のみなさんが、
団体宿泊研修の生活をおし
て、心身ともに健全な現代青
少年に育つて、よりよい社会
人となることを期待して設置

津奈木中決勝進出
県相撲全国大会予選
去る六月二十六日飽託郡河
内中学校での、県中学校相撲
全国大会予選で、わが津奈木
中学校選手は、強豪をつぎつ
き倒して決勝戦まで進出した。
おしくも優勝旗は逸したが県
下からよりすぐった二十八校
四十三組中二位になったこと
は、平素熱心な練習の結果で
その健闘をたたえた。

昭和五十二年度役員
4Hクラブ
会長 寺本 信介
副会長 山本 誠吾
企画 開田 忠章
会計 久村 恵子
地区 支部長 副支部長
新川 丸山幸江 川添マサ子

おわび
前号に誤記がありましたので
訂正してお詫言します。
浜崎婦人会新役員
副支部長 村上 ヤス子
支部長 浦上 ノリ
副支部長 白坂 寿子

肥後っ子のしつけ十章

(一)面よりつづく
責任感の傾向がありますので、この点を指導していきたいと思います。
(二) 学校に遅刻したのは親が起さなかったから、と言ふことですね。
ここで朝起きに対する話から高校期
◎朝起きは子供の責任で、◎目覚まし時計はあくはよかつたが、又あとにもとつた。
◎ひるの運動と夜の勉強で、睡眠時間が足りないから親が起してやるのも止むを得ない

婦人会のボランティア活動

六月十三日(日) 津奈木校区婦人会、山口会長はじめ総数二十数名、それぞれの出で立ちで、八時三十分全員集合、草取り作業、調理室の整理と二つにわかれての大奮闘であった。
この日に限りのすべし限りつづいて汗を流した。焼却場見学へと直行した。鶴田保健課長の説明を聞きながらバスは目的地に走り出す。赤崎を過ぎた狭い道で乗用車二回すれちがった。



鶴田保健課長より説明を受ける婦人会

(歳時記)



夏の風物詩(せみとり)

鳴きやめて飛ぶ時蟬の見ゆるなり
正岡 子規
ふり仰ぎ新樹の下に立ち憩ひ
池内 たけし

行事お知らせ

- 郡総合青年祭(アドミントン)
期日 七月十四日
場所 津奈木小学校体育館
時間 二十時〜二十二時
郡総合青年祭(バレーボール)
期日 七月十九日
場所 津奈木中学校校庭
時間 八時〜十五時
町民体育祭水泳競技大会
期日 七月三十一日
場所 町民プール
時間 九時半〜十五時
郡婦連バレーボール大会
期日 七月三十一日
場所 津奈木小学校体育館
時間 九時五十分より
郡青年祭、文化・生活・意見発表
期日 七月二十一日
場所 津奈木小学校体育館
期日 七月二十四日
場所 津奈木中学校校庭
時間 八時〜十五時
町民体育祭水泳競技大会
期日 七月三十一日
場所 町民プール
時間 九時半〜十五時
郡婦連バレーボール大会
期日 七月三十一日
場所 津奈木小学校体育館
時間 九時五十分より
郡青年祭、文化・生活・意見発表
期日 七月二十一日
場所 津奈木小学校体育館

肥後狂句 堀双岳選

雨続き、乾した菜種の芽の出る
又明日、自分で呑むしこ提げて来エ 笹岳
雨続き、水もビールもさで売れん
雨続き、テルテル坊主がストライキ 一平
又明日、寄つて下はりお客さん
又明日、丁度所に客の来た
又明日、もうは君とは基はうたん
次 題
むつとして、心細さ
四句以内、七月末まで、公民館へ

九州水産工場を観る



津奈木干拓に二番目の工場が来た。名を九州水産株式会社という。工場は干拓地の最も水便りである。
私たちが工場をたずねた時は、愛媛県から来た保冷車に冷凍鰯を積み込んでいた。
リフトが冷凍室から出てくると、冷気はつめた霧となつて流れ出て、ひんやりとあたりを包む。
リフトは、四角の水塊となつた鰯を、トラックに積みこむ。
となりでは別な仕事を十二三人の男子工員がしている。
かご 50cmX30cmX10cmの、凍った鰯をひっくり返して、手荒れの上にたたきつけて鰯の固まりをとり出す。
人々は、この魔もんを避けるため、毎年暮れになると、セチ木を切り、つるの葉と、裏白のヘゴを取り、いろりにセチ木を燃やし、つるの葉と裏白ヘゴを家中の品々に白紙

伝説

とらおかめ

私が四五才の頃か、小さい妹が、泣いたりむつがたりすると、母はいつも、とらおかめが来るぞ、泣けばいぢかますぞと云った。
とらおかめが、どんな姿をしているのか分らなかったが、母にそう言われると無性に恐ろしかった。
夕ぐれ時になると、家の近くに遊んでいても、ひよいととらおかめを思ひ出すと、急に怖くなって内の中に走り込んだりしたものだ。

津奈木民話(一) 堀 二雄

母に、とらおかめの事を聞くと、とても恐ろしく魔もんたいたと答えた。
魔もんとは又分らなかったが、人を打撲る程のものだから、きつと虎と狼を一語にしますぞと云った。
たようなとても恐ろしいものであろうと、子供に思ひ出した。
倉谷の楠木十市郎翁や、古中尾の山崎直次郎翁のお話を聞くと、この魔もんの正体は蜘蛛のお化けである。



かごから出た四角の鰯の固まりは、水をかけられて更に冷凍される。長距離輸送にも耐えるように強冷凍するのだから、今トラックに積みこむのもそれである。
九州水産は産地から大量に買いこんで、冷凍して冷凍庫にたくわえておく。業者は鰯やほまちなどの飼料として津奈木まで買ってくる。七千トンに達する冷凍庫から出している。
もつと一つの仕事場は今建築中である。魚をまるのまま凍らせて乾燥する工場である(冷蔵庫に入れておく食品が乾燥する理の応用)
敷地五ヘクタール、いま、建物面積四千平方メートル。第二期の計画が出来上がる。八千二百五十平方メートルの建物面積となる。
工員も二十五人(男)であるが、加工場ができてと、女三十人が早速仕事にかかる。
ん喰わず、養だけは毎日一荷つ出す女なら、嫁に貰うてよかはんてんと言つて居た。
夏作の取り上げも終り、秋作の準備のため、喜作やんは田畑も耕さねばならぬ、肥料も多く運ばねばならないので、独りで大忙しの日を送っている。

PTA 青少年育成懇談会開かる

六月三十日、中央公民館において午後七時三十分より、午後十時まで、津奈木町各小中校PTA、高校生をもつ父兄各校区婦人会の方々に、主として、青少年の健全育成について話し合いがなされ、親として子供の育成はどうすればよいか活発な意見が出され、特に、高校生のオートバイによる交通事故はどんなに危険であるかを強調した。
この原因があるか等、問題が提起され、次のような解決の糸口が協議されました。
50cc以上によるオートバイの事故が多いが、高校生には50cc以上のオートバイは与えない。一部の父兄が守っているが、意味がないので全父兄が毅然とした態度でいることが大切であり、スピードの出し過ぎが多いのは、大人の運転方法にも問題があるので、法規の再確認をして、親も安全運転に努め、交通安全に関して子供と話し合う機会を多くつくる。それらの具体的推進方法として、赤崎、平国では高校生の社会における望ましい生活の指針として、青少年を育てる会を発足、高校生の九十八%の参加を得て、高校生の悩み、あるいは親でも

